

海外紹介 国際会議レポート(2)

WFASローマ国際シンポジウム報告

黒須幸男 堀口和彦 津谷喜一郎

全日本鍼灸学会国際部

Report of the Attendance of WFAS International Symposium on
Acupuncture in Roma

KUROSU Yukio HORIGUCHI Kazuhiko TSUTANI Kiichiro

Department of International Affairs, The Japan Society of Acupuncture and Moxibustion

はじめに

2002年度世界鍼灸学会連合会(WFAS)国際シンポジウムは、2002年11月7日～9日までの3日間、イタリア鍼灸・中医学協会ならびにWFASの共催で、イタリア・ローマの「コンシーリオ・ナチオナーレ・デレ・レチエルケ」において『鍼灸に妥当な研究方法の確立のに向けて』をメインテーマに開催された。参加者は26か国から450名であった。その中、開催国イタリアは300名、当国以外は150名、日本からは12名であった。全日本鍼灸学会からは黒須幸男参与(WFAS副会長)と、津谷喜一郎国際部長(WFAS執行委員)の代理として堀口和彦国際部員、安雲和四郎国際部副部長が出席した。シンポジウムと期間中に開催された執行委員会についてその概要を報告する。

1. シンポジウム

開催式は大会事務局長 F.Bangrazi Petti の司会により始められ、まず、WFAS会長 鄧良月および大会長 Aldo Liguoriの歓迎のあいさつがあった。そのあと順不同であるが引き続き来賓としてイタリア厚生次官 Sen . Cesare Cursi、ラ・サピエンサ国立大学医学部長 Prof .Luigi Fratiはじめ麻酔科、法医学科、実験医学科、総合病理の各科教授らの

祝辞が続いた。

シンポジウムの概況をまとめると次のようになる。詳細については「医道の日本」誌2003年6月号に報告予定。プレナリセッションとして6題、特別報告4題、招待講演4題、ワークショップ12題、一般口演として鍼研究の方法論6題、鍼の発展について12題、鍼の補完的技術の臨床的応用12題、症例研究と個人体験32題、イタリア国家保健システムにおける鍼9題、鍼と歯科としてPart は歯科疾患の治療4題とPart は歯科における鍼麻酔の応用4題、またポスタ・セッションは25題で、総演題数は130題であった。

口述発表を国別でみるとイタリア70題、中国11題、日本・フランス・インドネシア各3題、米国・カナダ各2題、英国・ドイツ・オランダ・ハンガリー・ノルウェー・スロベニア・メキシコ・インド・オーストラリア・ベトナム・韓国各1題であった。

ポスタ・セッションは、中国12題、イタリア8題、日本4題、ロシア1題であった。

今回の大会テーマが「鍼灸に妥当な研究方法の確立に向けて」ということもあったが、内容的にRCTを採用した研究、その方向性を強調した論文がかなり見受けられた。また大会長が医科大学に

幅広く人脈をもつMedical Doctorの関係もあって医大による発表も多かった。なお、日本からは鍼研究の方法論について1題、鍼の発展について2題、ポスタ・セッション4題の計7題であった。

2. WFAS第5期執行委員会第3回委員会

標記委員会は、Atlantic Hotel 小会議室で行われた。出席者は、執行委員18名：名誉会長王雪苔、会長鄧良月、前会長洪伯榮、5人の副会長であるAldo Liguori、李科元、Nguyen Tai Tur、Christian Remp、張金達、黒須幸男、事務総長沈志洋、財務局長李維衡、以下執行委員の申泰鎬、Song Dal Yong、Arne Kausland、Kevin Plaisted、林子強、Juliana Tjandra、Pascal Beaufret、津谷喜一郎の代理として堀口和彦国際部委員らであった。オブサ・バ・は12名で日本からは、国際部副部長の安雲和四郎が参加した。

会議は今回のシンポジウムを組織したイタリア鍼灸中医学協会の報告に始まった。議事を項目ごとにまとめると以下になる。

- (1) 2003年、中国にて30か国以上の団体が加盟するWorld Society of Traditional Chinese Medicine が設立される予定。

WFASとしては、これに結束して対抗していく方針。特にWHOとの関係と設立以来15周年であることを強調して、今後益々加盟各国会員学会が活発に活動して、この団体に対抗して行く。また、鍼灸の国際的なResearch Centerを中国に立ち上げ、その上で研究と教育の場としたい。WFASのウェブサイトが2003年11月22日にオ・ブンの予定。

- (2) WHOとの関連

インドネシアのJuliana Tjandra執行委員が2002年のWHO South East Asian Regional Committeeに参加。そのときの資料“WHO Strategy for Traditional Medicine 2002 - 2005 (Agenda item 10.4, document SER / RC55 / 13)のコピー”が配付された。同文書には2002～2005年にかけての伝統医学に対するWHO戦略が示されている。当委員会は、地域に広く

普及した伝統医学は国のヘルスケアシステムに統合されることのできる資源であると強調している。

- (3) WHOとのより一層強い協力関係について

1) 2003年の世界保健会議(World Health Assembly)やWHO地域委員会(WHO Regional Committee Meeting)の参加調整。

もし会長が出席できないとき、会長は両会議の開催地に最も近い地域の副会長もしくは執行委員会を出席させるため指名する。

- 2) 鍼灸医学のためのWHOとの協力関係

i) WFAS事務局はWHO本部事務局ないしWHO地域事務局と密接な関係を取り、両者に関係する協力プロジェクトにおける論議を行う。具体的には以下のプロジェクト

- a) 鍼灸のための最も適切な適応症における研究
b) 経穴の指示(適応)の標準化に関する研究の実施
c) 国際鍼灸教育の標準化に関する研究の実施

ii) WFAS事務局の指導と援助のもとに、現会員学会はWFASの名のもとに、あるいは他の会員学会と提携し、それら地域のWHO地域事務局からの協力的なプロジェクトに対応することが求められる。

- (4) WFASへの新会員学会入会募集の強化。

1) WFAS執行委員や会員学会は、WFASへの新会員学会入会に積極的な役割を演じなければならない。それぞれ資格のある中医学や鍼灸の組織団体には、WFASへの入会のための紹介や推薦を大いにすすめる。

2) 一国・地域における3会員学会の制限は撤廃する。資格のある中医学や鍼灸の組織団体はWFASに入会できる。

WFASの執行委員会は、上記の要件や提案に基づいたスピーチを予め求められる。

- (5) 次のWFASシンポジウムは、ノルウェーのオスロで2003年9月12～14日の3日間開催される。また、第6回世界鍼灸学会連合会学術大会は、オーストラリアのクィーンズランドで2004年10月21～24日に開催の予定である。